

備北だより No. 15

-- 第15号 48.10.28.--

なんとたくさんの道を歩いてきたことか！

なんとたくさんの民家を迎えてくれ

解放し
着物を

散えてきたことか
食物を

前進の道々で！

なんとたくさんの平地を山を川を
われわれはこえてきたことか！

だが一日過ぎるごとに近くなる
独立の日はまだ遠い

われわれはF.R.E.E.L.I.M.O.の戦士
飛行機？戦車？われわれにはなにもない

確信 それを敵を殺しもし 破壊もある
それでも心に確信がある
確信 それが敵を武器よりも怖れさせる
だがそれが 瓦礫の上に再建をする

われわれは前進する——理想への手段

はじめての孤独から解放されて
より高くそびえるわれわれの理想

われわれは時に路傍に立ちどまる
呼びかけてきたひとりの子ども

だれかのほほえみ 遠くの星に 心魅かれて
心はしほし休止しても 歩行はつづく

遅れてはならない あそこでは敵が
民家を依然として奴隷におとしめているのだから！

戦車準備！同志たち！

モガンビーウ民族解放戦線(M.F.L.C.)
一九七一年新年のメッセージより

目次

出稼ぎコミュニケーション宣言	・・・ P1
村を照らしだしたコミュニケーションへの途	・・・ P2~3
クリ常駐者とバカキャンパー、共に ドブ板を踏み抜く	・・・ P4~6
松江での直販	・・・ P7~8
柳下村塾から何を学ぶか	・・・ P9~11

発行：大阪市東成区玉津二丁目 東成玉津郵便局留 備北百人委員会
郵便振替・大阪79064

≡出稼ぎ≡コミュニン≡宣言≡

1. われわれ弥栄之郷共同体では、きたる11月10日から来年の3月15日までの期間、集団で大阪に出稼ぎに出る機会を利用して、大阪は四条畷の「こむうな塾」を根城に、「出稼ぎコミュニン」を構成、都市での共同体運動を開始する。
2. 「出稼ぎコミュニン」は、農村を中心に展開してきたわれわれの個別弥栄之郷共同体の運動の獲得物、運動の質、運動のセンスをより普遍的で一般的なものとして鍛え上げることを目的とする。
3. われわれは、都市コミュニンが従来不可能であるとか、困難であるとかいわれている現状にあるなかで、一つ財布はもちろんのこと、共同生活、共同労働、しいては弥栄之郷共同体「四つの闘争」の都市型パターンを模索して、闘争のある都市コミュニンを現出させる。
4. その具体的活動の一つとしては、オー期大阪コミュニン学校(自主講座)を運動として成立させ、多くの未知の仲間たちと知り合い、意見を交換し、刺激し合うことによって、個人のコミュニンに対する理論的深化を測るとともに、弥栄之郷共同体運動を根底から検証し直すきっかけとする。
5. われわれの「出稼ぎコミュニン」は、都市に住む友人諸君に門戸を開いている。それは、弥栄之郷共同体から出稼ぎに出るものによってのみ構成されるのではなく、都市に住む仲間と部分的にあるいは全体的に構成しようとするものである。

「出稼ぎコミュニン」と共に共同労働、共同生活、コミュニン学校(共同学習)、それにたまに一緒に晩めしを食いなびらしゃべろうという仲間は、大阪府四条畷市南野1379-3 こむうな塾気付「出稼ぎコミュニン」まで手紙を。

村を照らした「三」の途

へ人民公社へ横谷を目ざして

田中 茂

私達にとつては、この弥栄郷共同体を現実の社会と切り離した所で、内に対してのみ自由で、権力のない社会に変革する事が目的でなく、弥栄の郷共同体を軸にして、農村を都市を、共同体社会（コミュニケーション）に変革する事が目的なのである。

この目的達成のため私達は、共同性が崩壊しつつある農村を、コミュニケーションすべき場所としてとらえ、直販を媒介に、共同性の芽を復権させていかねばならない。私達のいる横谷部落は、弥栄村の中でもとりわけ過疎地として知られ、農業は稲作がほとんどで、と水に米は、農協を通

して出荷されている。野菜の方は、自給用しか作っていない事・買取り値が安い事などで、農協にもほとんど出荷されていなかった。それがへ常会へがまの庵へかべ新聞で野菜の出荷を呼びかけたり、直販の売り上げ金を農家に配る機会に、人民工作と称して、野菜作りの重要性を説明した。その結果、現在までに、部落の全戸が一回は野菜を出荷するまでに至っている。

だが、まだ出荷を目的とした野菜作りや、直販の共同作業は、ほとんど行なわれていない。私達はこのような状況の中でこう考える。

一、農家が今の自給用の野菜作りのみでなく、出荷を目的とした野菜を作るようにしていく。

そのためには、野菜作りが金になる事を直販を通して示す事と、今ある自治会組織の活動・共同作業をもっと活発にしていくため、へ常会での直販の情宣・へ婦人会・へ老人会が共同作業で作っている野菜を優先して出荷することが必要である。

二、一軒一軒の農家が別々に野菜を作っているのを、一グループ三〜四軒の互助組織で、共同栽培するようにしてゆく。

それには、部落の会長へ婦人会のおばちゃんなどが、直販に参加し、消費者とじかに話し合える機会を持つたり、団地の消費者と契約を結ぶ

出荷した野菜は確実にさげけるようにしてゆかぬはならない。

また、互助組織の活動を活発にするため、食管制の崩壊を予知して政府への共出来も出荷できるようにしてゆく。

三 互助組織の中での共同作業を、部落全体の共同作業にするため、部落の自治会活動の中に、互助組織の活動をくみ入れ、休耕している田畑は部落の共有地にしてゆく。

それには、へ常会などで、野菜の作つけ年次計画が立てられたり、直販の準備・販売が、村全体の共同作業になってゆかぬはならない。

私達の共同体運動は、この三つの段階を通して、田畑の共有化・野菜作りや直販の共同化などのへ共同性の芽を作り、横谷部落をさらに新栄村を、コモン社会に変革せん

としてゐるのだ。

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＜その2人目＞

ワソツネ (22才女 山形出身)

20人にして自我に芽ぐめ大学を中退。その後、全国各地放浪の旅に出る。なんの因果か今新栄の石ころにほ水込み、そのまま居つスけている。



＜その4人目＞

トラコバ (23才男 浅草出身)

酒を飲むとがうり変身。いつもバカばかりいって 地がバカ(い)また自分でもわからず、一見アロンソンに似た(い)男。よく見ると---。キブツキブツと日夜つぶやいていたが周囲にけなされ、断念。



ワラエ、僕を

シン 常駐者とバカキャンパー共に

ドブ板を踏み抜く

トラコバ先生のキャンピング感想記

トラコバこと小林君は、8月3日

に奈良之郷共同体に來ました。彼は、10月13日、日本協同体協会を通してイスラエルに行く予定でした。その前に日本の共同体を見学しておけばイスラエルのキャンプ生活においてもより鮮明な印象を持つことができると思つたからです。

彼は着いてみてびっくりしました。便所の旧式なことといったら、もう野糞のほうがましなくらいです。でも人間とはよくしたもので、3日も水はなれてしまつて、元の軽さを取り戻すことに成功しました。彼は彼なりの向題を持つてきたのです。決

して便秘だけではありません。共同体における人間関係に興味をもつていました。

一夜あけて彼が目を見ますと、クソ尾肉というニシイが、フツフツ人言を言つてました。山師がどうのこうの、クソ田のバカが、とか言つていました。最初は何のことやろと思つていましたが、晩のミーティングでその謎がとけました。山師というのは筋肉のかたまりみたいな山猿で、クソ田というのは、×がネをかけたしんきような水呑百姓です。2人とも常駐者とかいつて、ずっと前からここに住みついていた、いわば

土着民族です。二水にはもう一人チユー太という山イモが入ります。向題はこの常駐者4人の人間関係にありました。山師がその晩発狂しました。ヒステリーを起したのです。原因は何かわかりませんが、「キャンパーちゅうのは、俺達と奈良之郷が投げかけている向題をどう受け止めるんや」という形で、キャンパーにハッ当たりしてきました。彼トラコバはびっくりして、目玉だけ偵察用に突き出して、あとはジッと静かにしてました。山師は続けて言いました。「共同体を現状からのドロツプアウトの場と考えたりして自分勝手に新しく創り変えようとしなかつたリレ」お前らなんでもここへ來たんや。遊びに來たのとちやうのか。彼はもう驚いて、えらい所へ來ても

うたなと思っていました。が、夜一人になり、布田にもぐり込むと山師の言葉がちらちらと脳裏をこすりました。本当にそうかもしれんなあと。

8月10日は、弥栄の郷から広島まで共同体の車に野菜を運んで売る直販の日でした。彼は相変わらず、面白半分にくつついて行きました。しかし、彼は野菜を売りながら、農民の意識構造と都市のそれとに、はっきりしたずれがあるのを感じました。その水が何であるかは、よくわかりませんが、弥栄村には、村落共同体的風土がまだ残っており、その辺が力になるかもしれないと思いました。野菜の売り上げは、2万田前後でした。彼はがんばりました。(いっしょに行ったキャンパーもがんばりました。キャンパーの活躍によって弥栄の人々は食えるのです。彼は共同体

でも説得力を少しは持てた気になりました。少しづつ面白くなってきました。お盆に彼は、皆んなと一緒に盆踊りに行きました。おでんとなますと酒を手土産というか、参加料というか、で持って行きました。彼は村のタニナ衆と酒を飲みフラフラに酔っぱらい、タニシのような目で観察していました。12時頃、みんながかつてなことを言いながら、星の降る山道を帰ってゆきました。翌日の夜、同じ部落のある家に招待されました。岡本さんというて、夫婦二人で住んでいました。この岡本のタニナがどういう訳か、クソ大原という女性を天変かわいがりします。だいたいのこの人は、女の子ばかり可愛いがります。面白くないことです。このクソ大原という人は、柳下村塾というところへ行ってきた帰りに、弥栄に寄

りました。柳下村塾でも、何やら地城闘争をしていっているようですが、その闘争形態を取り入れ、弥栄の闘争にどう生かしていくかという三ーティンクが夜渾くまで続けられました。それは4つの闘争方針として、まとめられました。

①流通機構の变革。

②生きのびるための都市での戦い。

③農村のコミュニン化。

④コミュニン戦士の育成。

です。

米 米 米 米 米

常民の意識・構造をいかに変革し

ていくかの現実的な目標である4つ

の闘争方針は、常駐者、キャンパー

を占わず、8月中旬、弥栄の郷共同

体に存在していた全ての人々によつ

て生み出された。しかし常駐者が、

4つの闘争方針を内在化させること

に成功しているのに対し、キャンペーンはそれらを質量ともに、体外にか存在させなかった。確かにキャンペーンは時間的制約により闘争の進展状況の全体像を明確に把握しきれないというマイナス要因がある。が反面、新鮮な視座で日々の活動―種まき、除草、収穫、直販、人民工作等、ある程度進展した闘争の断面を、実感によってとらえることが可能と思われ、常駐者は、キャンペーン自身の体内に、その種の実感がどの程度入り込んでいるのかを認識すると同時に、キャンペーンの実感を、キャンペーンと共に意識化し、言語によってはっきりその実像を浮き彫りにしていく必要がある。



9/9~10/28 百人委員会会計報告 (担当 近藤ちゃん)

収入

くり越し金	31593.-
定期カンパ {長谷川・国子・村松 植原・文彦・近藤}	17500.-
9日大阪例会カンパ残金	166.-
9日東京集会カンパ 及パンフレット等売上金	3420.-
「備北だより」定期購読料	500.-
	¥53179.-

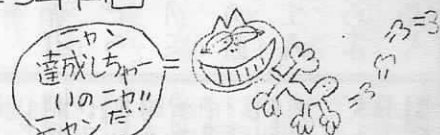
支出

写真代	575.-
原紙、インク代	3600.-
印刷機使用料	250.-
通信費(セキ、ハガキ)	2200.-
東京集会会場費	550.-
弥栄之郷入種代	870.-
“ 酪素(バムド)	5000.-
	¥13045.-

10/28 現在残金 大金40134円也

土地共有券運動

48年度中の目標24万円へ!!



百人委員会では、共同体の土地を皆んなのものにするため、(個人の私有地にしな)ため)土地共有券運動をしています。1口2000円で、約30坪(約100m²)です。10月28日現在で、45人107口21.4万円集まっています。今、弥栄村の横谷部落だけです。村内にまだ土地が沢山ありますので、どんどん共同体を作っていこうと思っています。今の土地は、家つきで24万円買ったので、借金が26万円ある訳です。今回、佐竹康平(10)、佐竹比呂志(50)、宮野初仁(10)、池田万寿子(10)、小山浩延(10)がありました。新しい共同体を我らの手で!!! ・・・!! 詳しくは百人委員会まで連絡を。